

Title	Cultural Computing「文化・無意識・ソフトウェアの創造力」(京都大学公開講座「進化とは何か?」,研究会報告)
Author(s)	土佐, 尚子
Citation	物性研究 (2010), 94(1): 134-134
Issue Date	2010-04-05
URL	http://hdl.handle.net/2433/169267
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

有する天体として以前からタイタンが注目されている。タイタンには気体および液体のメタン CH_4 があるが、メタンは長期間安定して存在できないはずなので、火山活動あるいは生命活動によるメタンの供給が想定される。また、タイタンにもアンモニアを主成分とした「内部海」があると考えられている。しかし、タイタンの主熱源は潮汐加熱ではなく、その実像の解明が待たれている。

氷衛星であるエンセラダスも内部海（アンモニアではなく水）を持つと考えられているが、その熱源もまた実態が不明である。これらの天体について、比較惑星学ならぬ比較衛星学的な見地から、生命存在の可能性を比較して論じる。

土佐尚子 京都大学学術メディア情報センター

Cultural Computing 「文化・無意識・ソフトウェアの創造力」

要旨：IT 社会が成熟し、コンピュータの課題はシステムという箱から表現内容に移行してきている。いままで定量化できなかった個人の主観・感性・情緒・文化・民族性をコンピューティングできる時代の準備が整ってきた。本書は、こうした「カルチュラル・コンピューティング」の概念を提示し、未来のコンピュータのコミュニケーション能力に欠かせない、人間の感情・意識・記憶の違いを反映させるコンピューティングの方法を説明する。